

リクライニングシャワーキャリー

# クルリクキャリー

操作取扱説明書

---

---

このたびは、「クルリクキャリア」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

「クルリクキャリア」は施設内、またはご家庭内で姿勢の不安定な方の入浴を助ける、リクライニング機構付きのシャワーキャリアです。

また、入浴介護リフトを利用した入浴の際には、吊り具としてもご使用していただけます。

本説明書をよくお読みになり、正しく安全にご使用下さるよう、お願い申し上げます。

なお、お読みになったあとは、大切に保管して下さい。

---

---

# 目次



1. 安全上の注意	3	5. メッシュシートの取り付け、取り外し	20
2. 各部の名称と機能	5	(1) テンションベルトの外し方	20
3. 操作・取り扱い	8	(2) テンションベルトの付け方	21
(1) リクライニングの操作	8	(3) メッシュシートの外し方	22
(2) チェア部の分離・合体の操作	8	(4) メッシュシートの付け方	25
(3) フットプレートの操作	9	6. 日常のお手入れ、点検について	26
(4) アームレストの操作	10	(1) 通常のお手入れ	26
(5) 安全ベルトの着脱	10	(2) メッシュシートのお手入れ	26
(6) リクライニング時の注意点	11	(3) 日常の点検について	26
4. 入浴介護リフトを利用した入浴手順	12	7. 仕様	27
(1) はじめに	12		
(2) 吊りベルトの装着	13		
(3) 吊りベルトの調整	14		
(4) チェア部の分離	16		
(5) 入浴介護リフトの操作	17		
(6) チェア部の合体	17		
(7) 吊りベルトの取り外し	18		
(8) 移動	19		

# 1. 安全上の注意

ご使用前に、この安全上の注意をよくお読みの上、正しくお使い下さい

ここに示した注意事項は、商品を正しくお使いいただき、お客様本人や他の人々への危害、危険、損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、「警告」・「注意」の2つに区分しています。

いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守って下さい。

- |  |                           |
|--|---------------------------|
|  警告 | ： 人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容 |
|  注意 | ： 人が損害を負う可能性および物的損傷のみの発生が |

※ 本文中の **重要** **注意** の表示がある部分についても、破損やけがを未然に防ぐための記述ですので必ずお読み下さい。

## 警告

- ・ 屋内向けに作られた商品ですので、屋外での使用はお止め下さい。
- ・ 階段やエスカレーターでは絶対に使用しないで下さい。
- ・ 分解、改造は耐久性に影響をおよぼすため絶対に行わないで下さい。
- ・ フットプレート・レッグレスト・アームレストは、シートに座っている時のみ使用して下さい。過度の荷重をかけたり、乗り降りの際に使用すると、転倒や破損の恐れがあります。
- ・ シートの上には絶対に立たないで下さい。落下、転倒により重大な事故につながる恐れがあります。
- ・ スロープを降りる場合には、必ず後向きに走行して下さい。前向きに走行しますと搭乗者がキャリーから落下したり、スピードが出過ぎることが考えられ、重大な事故につながる恐れがあります。
- ・ 暖房器の周辺など高温の場所での使用・保管はお止め下さい。変形や破損、火災の原因となります。
- ・ 介助・搭乗者の身体を車輪や回転部、作動部などに挟まれないよう、充分注意しながらご使用下さい。
- ・ 搭乗者が乗り降りする際には必ず、ブレーキを使用して下さい。キャリーが動いて落下や転倒事故を招く恐れがあります。
- ・ 台車とチェア部のロック（スプリングキャッチ）はリフトで吊り上げる時以外は常にロックの状態にしておいて下さい。落下、転倒により重大な事故につながる恐れがあります。
- ・ リフト入浴で使用する際の吊りベルトは4本すべてが450mm以上になるように調整し使用して下さい。想定以上の負荷がチェア部にかかり破損する恐れがあります。

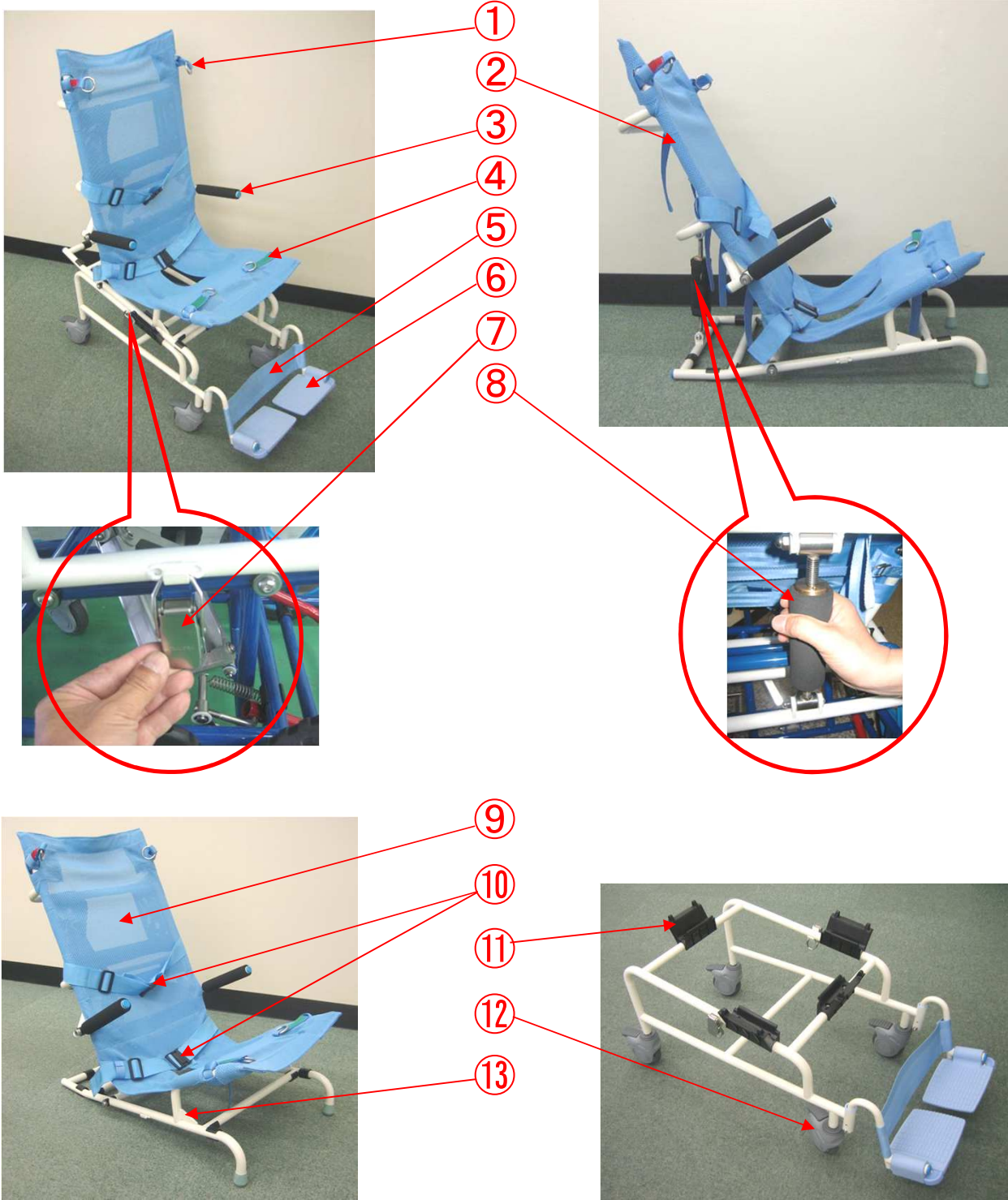
- リフトで吊った際のチェア部角度は、座面フレームと床との角度20° 以下で使用して下さい。 台車との合体時にバランスが崩れ、転倒し重大な事故につながる恐れがあります。
- 移動時にスロープを通る場合には、バックレストは一番起きた状態に調整して使用して下さい。 バランスが崩れて後方に転倒する恐れがあります。
- バックレストに物を掛けないで下さい。 重心が頭側に傾き転倒する恐れがあります。
- メッシュシート、吊りベルト、安全ベルトは消耗品です。 切れたり、ほつれたり、破損したら、必ず交換して下さい。 落下や転倒により重大な事故につながる恐れがあります。



## 注 意

- キャリーを投げたり、落としたりしないで下さい。
- 本来の使用目的と違った使用はお止め下さい。
- スロープの途中での、保管、放置はお止め下さい。
- 高温・多湿な場所に長時間放置しないで下さい。
- 介助・搭乗者の衣服を車輪や回転部、作動部に挟まないよう充分注意しながらご使用下さい。
- キャリーをリクライニングさせる時には、まわりに充分注意して行って下さい。

## 2. 各部の名称と機能



チェア部

台車部

- ① 肩側吊りベルト
- ② バックレスト
- ③ アームレスト
- ④ 脚側吊りベルト
- ⑤ レッグレスト

- ⑥ フットプレート
- ⑦ スプリングキャッチ
- ⑧ リクライニングハンドル
- ⑨ メッシュシート
- ⑩ 安全ベルト

- ⑪ キャッチ (合体ガイド)
- ⑫ キャスター
- ⑬ 座面フレーム

### ① 肩側吊りベルト

リフト入浴に使用する際に、ハンガーに接続する肩側のベルトです。  
中間で切り離す事ができます。

( P 1 3 4- ( 2 ) 吊りベルトの装着  
P 1 4 4- ( 3 ) 吊りベルトの調整  
P 1 8 4- ( 7 ) 吊りベルトの取り外し ) 参照

### ② アームレスト

搭乗者が肘や腕を置いたり、手で握ったりして、座っている時の状態を保つための物です。 移乗や洗体の時に邪魔になる場合には跳ね上げてよける事もできます。

( P 1 0 3- ( 4 ) アームレストの操作 ) 参照

### ③ 脚側吊りベルト

リフト入浴に使用する際に、ハンガーに接続する脚側のベルトです。  
中間で切り離す事ができます。

( P 1 3 4- ( 2 ) 吊りベルトの装着  
P 1 4 4- ( 3 ) 吊りベルトの調整  
P 1 8 4- ( 7 ) 吊りベルトの取り外し ) 参照

### ④ レッグレスト

搭乗者の脚部を支えます。

### ⑤ フットプレート

搭乗者の足を支えます。 移動時や洗体時、邪魔になる場合には、跳ね上げたり、取り外したりする事もできます。

( P 9 3- ( 3 ) フットプレートの操作 ) 参照

### ⑥ バックレスト

搭乗者の上体を支えます。 リクライニング時にはこの部分が倒れます。  
座面フレームに対して、 $105^{\circ} \sim 125^{\circ}$  ( $20^{\circ}$  後方) の間で無段階に調整できます。

### ⑦ スプリングキャッチ

キャリーの台車部とチェア部を合体時にしっかりと固定するロック部品です。  
リフト入浴時にチェア部を分離する場合のみに解除。 その他の場合には常に固定しておきます。

( P 8 3- ( 2 ) チェア部の分離・合体  
P 1 7 4- ( 6 ) チェア部の合体 ) 参照

### ⑧ リクライニングハンドル

このハンドルを回すことで、バックレストが倒れ、搭乗者の上体を起こしたり寝かせたりすることができます。座面フレームに対して105°～125°の間で無段階に調整できます。

[ P 8 3-(1) リクライニングの操作 ] 参照

### ⑨ メッシュシート

搭乗者はこの上に座ります。細かい穴が開いていますので、水分がシート上に溜まりません。取り外し、交換することもできます。

[ P 20 5. メッシュシートの取り付け、取り外し ] 参照

### ⑩ 安全ベルト

搭乗者の身体を保持します。胸部と腰部の2ヶ所に有ります。

[ P 10 3-(5) 安全ベルトの着脱 ] 参照

### ⑪ キャッチ（合体ガイド）

チェア部を合体するときの位置決めガイドになっています。

### ⑫ キャスター

前後の車輪です。固定部分を中心に車輪部分が360°回転し、向きを変えます。

ブレーキを掛ける場合、ペダルを踏んでロックさせます。ブレーキを解除する場合、逆の動作をします。

### ⑬ 座面フレーム

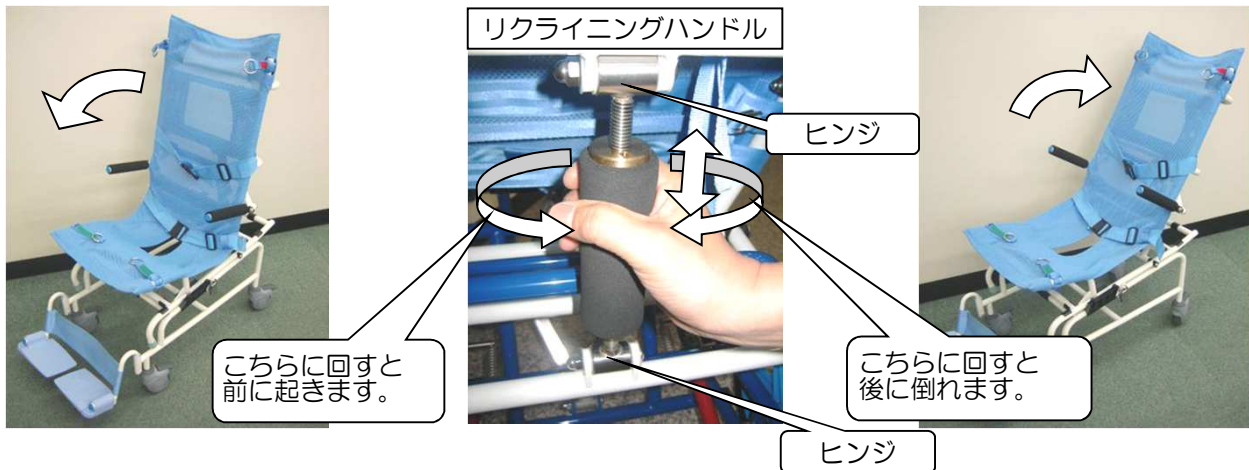
チェア部はこのフレームが台車に接続します。



### 3. 操作・取り扱い

#### (1) リクライニングの操作

リクライニングは、チェア部後方にあるリクライニングハンドルを回転させることで、バックレストの角度を座面フレームに対して、 $105^{\circ} \sim 125^{\circ}$ の間で無段階に調整することができます。



**注意** ハンドルとヒンジの間やフレームに指や手を挟まないように注意。

#### (2) チェア部の分離・合体の操作

リフト入浴に使用する場合、脚側、肩側吊りベルトを、リフトのハンガーに掛け、吊上げる直前に左右のスプリングキャッチを外します。

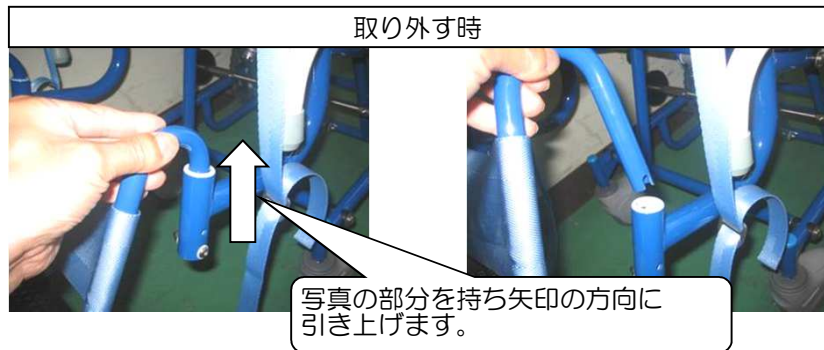


※ 外す際は、左右両側のスプリングキャッチを外します。

**重要** スプリングキャッチはリフトで吊り上げる直前に外して下さい。それ以外は常に固定の状態にして下さい。またスプリングキャッチは必ず左右両側を固定して下さい。バランスを崩し、転倒する恐れがあります。

### (3) フットプレートの操作

キャリー前方に付いているフットプレートは、以下の操作で取り外したり跳ね上げたりすることができます。  
移乗時や洗体時に邪魔になる場合には、取り外し、または跳ね上げて使用して下さい。



※ 取り付ける際には、上から差込み通常使用時の位置に戻します。  
回り止めの溝がピンにはまり回転しないことを確認してから、ご使用下さい。



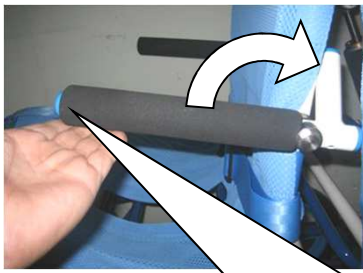
※ 戻す時には、反対に降ろします。

#### 重要

フットプレートは搭乗者が座っている時に搭乗者のみ使用できます。過度の荷重を掛けたり、乗り降りの際に使用すると、転倒や破損の恐れがあります。

## (4) アームレストの操作

アームレストは跳ね上げる事ができます。 移乗や洗体の際に邪魔になる場合には跳ね上げて使用して下さい。



アームレスト先端を持ち矢印の方向に引き上げます。



※ 戻す時には、反対に降ろします。

### 重 要

アームレストは搭乗者が座っている時に搭乗者のみ使用できます。過度の荷重を掛けたり、乗り降りの際に使用すると、転倒や破損の恐れがあります。

### 重 要

右の写真丸印の部分は、バックレストフレームにあたり、ストッパになっています。操作する時に指や手を挟まない様に注意して使用して下さい。



## (5) 安全ベルトの着脱

移動時やその他の場面で搭乗者の身体を保持する時に安全ベルトを装着します。安全ベルトは、胸部と腰部の2ヶ所に付いており、使用時には両方をしっかりと装着します。

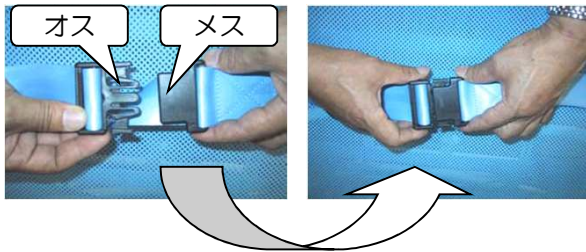


安全ベルト  
胸部

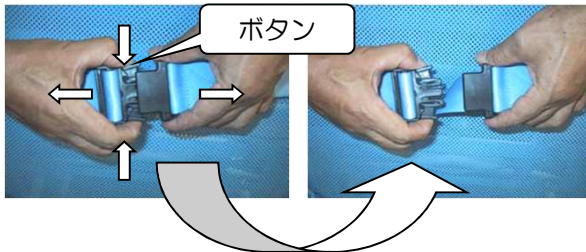
安全ベルト  
腰部

バックル

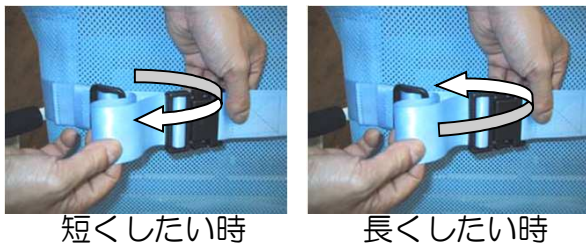




- ① バックルの装着  
 バックルのメス側に付いている溝に合わせてオス側をはめ、両側から”カチッ”と音がするまで、押し込みます。左右に引張り外れなければ装着完了です。



- ② バックルの外し方  
 オス側の両側に付いているボタンを同時に押しながら左右に引張ります。



- ③ ベルト長さの調整  
 短く調整したい時には裏側のベルトを手前側に引張り固定します。長く調整したい時には、手前側のベルトを裏側に引張り固定します。

**注意** 安全ベルトを装着する時には ねじれないように装着して下さい。

## (6) リクライニング時の注意点

チルトとリクライニングを合わせて、最も倒した状態が下の写真の状態です。この状態にて搭乗者を乗せる場合には、安全ベルト腰部より前方に仙骨がくるように移乗させて下さい。



**重要**

安全ベルト腰部より後方に仙骨があると、バランスを崩して頭側にキャリーが倒れてしまう恐れがあります。

安全ベルト腰部

## 4. 入浴介護リフトを利用した入浴手順

寝室や居室から搭乗者をクルリクキャリアに移乗させ、直接浴室に移動し入浴介護リフトで吊り上げることにより、座ったまま脱衣所・洗い場・浴槽への移動ができます。

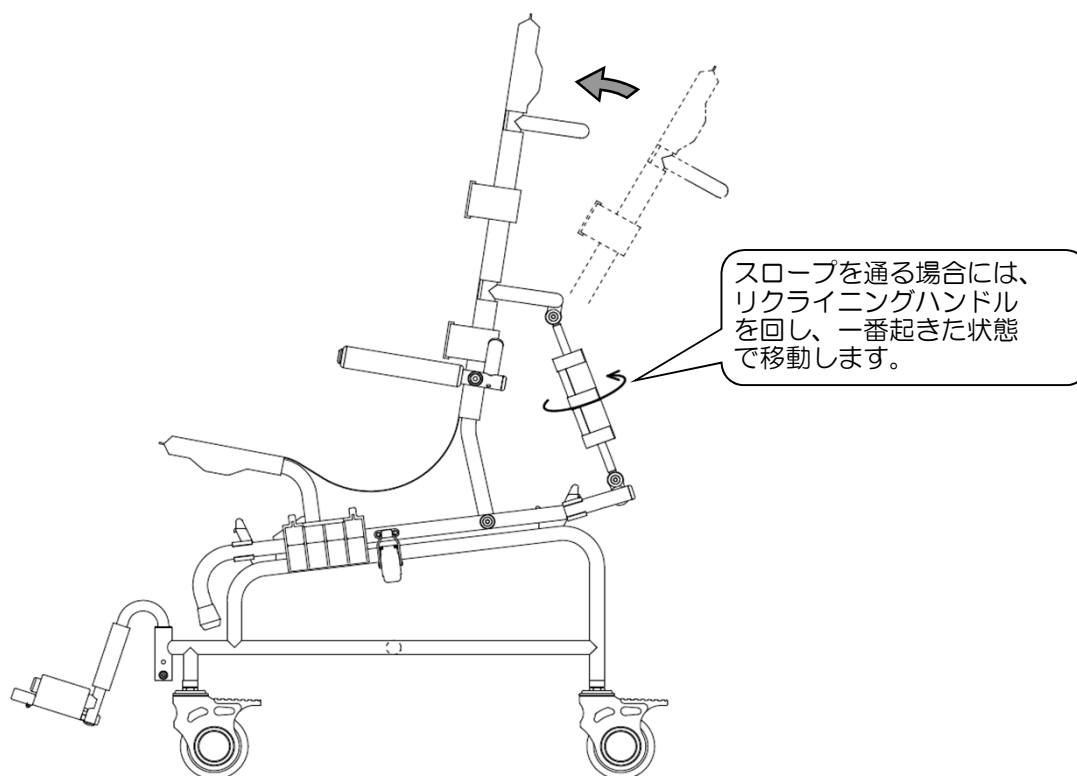
### (1) はじめに

移動時と入浴介護リフトでの吊り上げ時にはそれぞれキャリア姿勢に制限があります。制限の範囲内にてご使用下さい。

- 移動の途中にスロープを通る場合には、下図に示すように、バックレストの角度をリクライニングハンドルを回し、一番起きた状態に調整して使用して下さい。

#### 重要

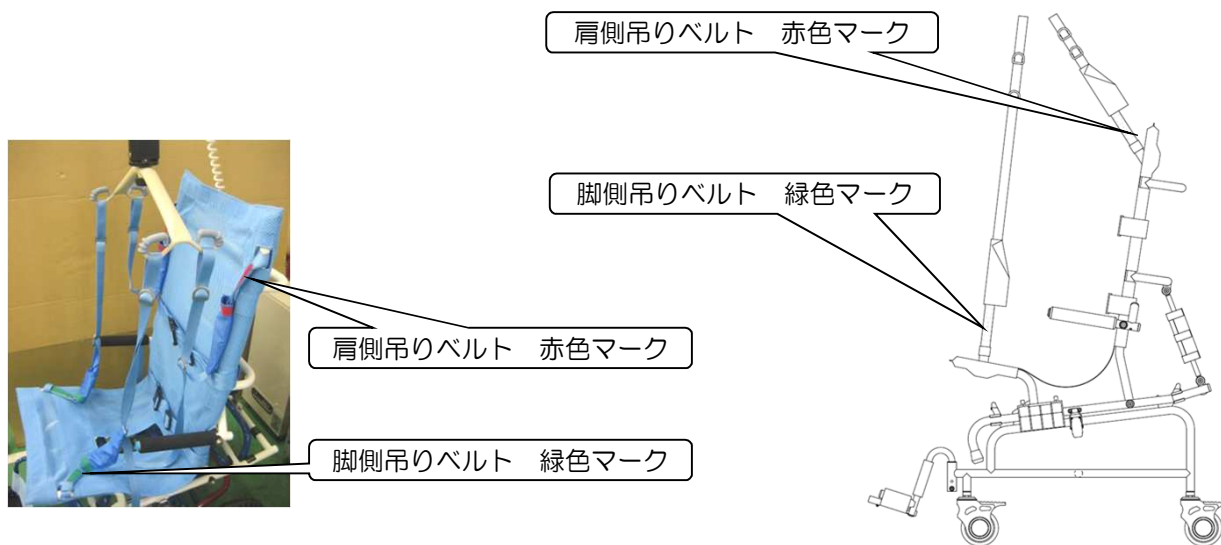
バックレストを寝かせた状態で、スロープを通るとバランスが崩れて後方に転倒する恐れがあります。



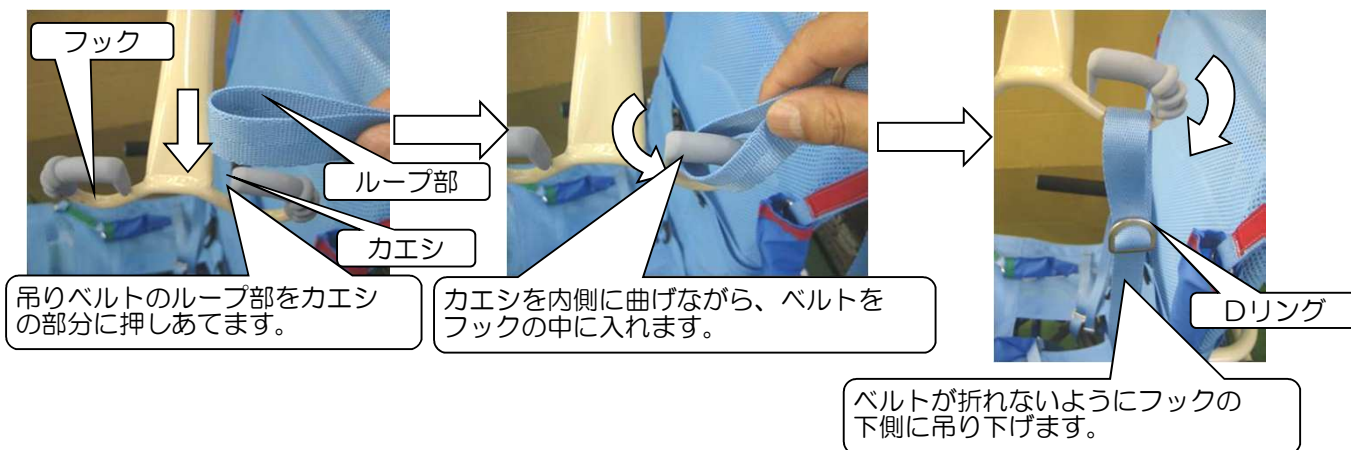
## (2) 吊りベルトの装着

入浴介護リフトのハンガーに、脚側吊りベルト、肩側吊りベルトを装着します。

※ ハンガーの使用法については、入浴介護リフトの取扱説明書をご覧ください。

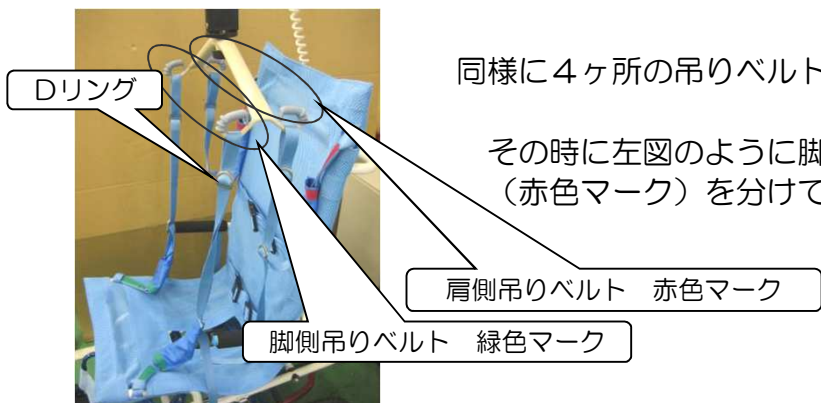


### ① ハンガーに接続（ミクニ マイティエースⅡの場合）



同様に4ヶ所の吊りベルトを接続します。

その時に左図のように脚側（緑色マーク）と肩側（赤色マーク）を分けて接続します。



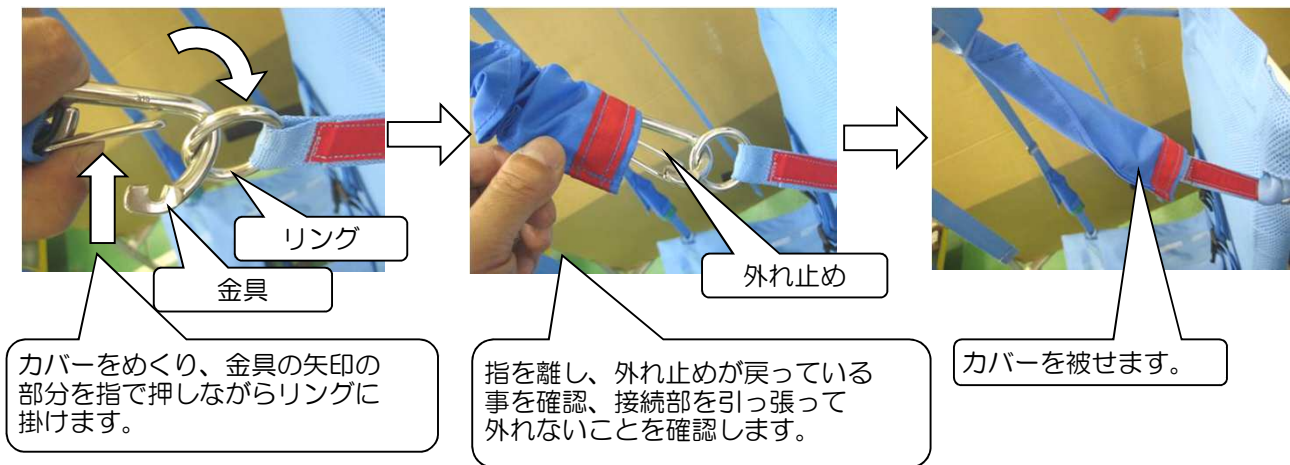
#### 注 意

写真のようにDリングがベルトの外側になるようにハンガーに接続します。

## ② 接続金具で接続

吊りベルトには、すべて中間に接続金具が付いています。  
ここでは、この接続金具を使っての接続を説明します。

(あらかじめ ” ① ハンガーに接続 ” を行っている必要があります。)



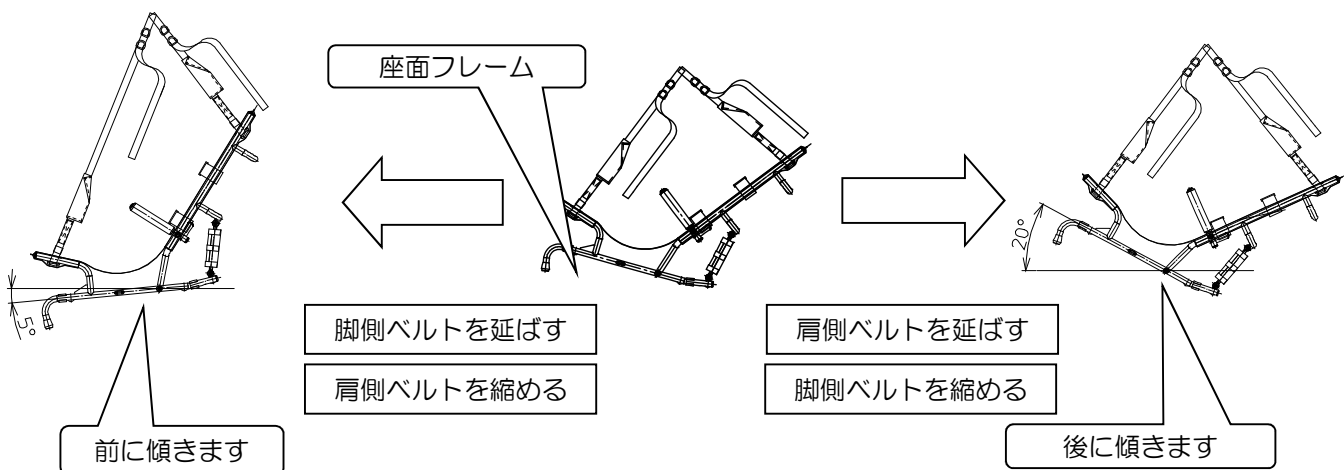
同様に4ヶ所の吊りベルトを接続します。

### 注 意

カバーとリング側のベルトに付いている色を合わせて接続します。  
(赤マーク・・・肩側      緑マーク・・・脚側)

## (3) 吊りベルトの調整

入浴介護リフトを使用し吊り上げる場合、吊りベルトの長さを変えることによって下図のように、さまざまな吊り姿勢に変化します。  
ここでは、標準的な吊り姿勢を作る手順を説明致しますが、搭乗者の身体  
の状況や使用環境に応じて 都度 調整しながら、使用して下さい。  
ただし、床に対して座面フレームが、 $-5^{\circ} \sim 20^{\circ}$  の範囲で調整して下さい。



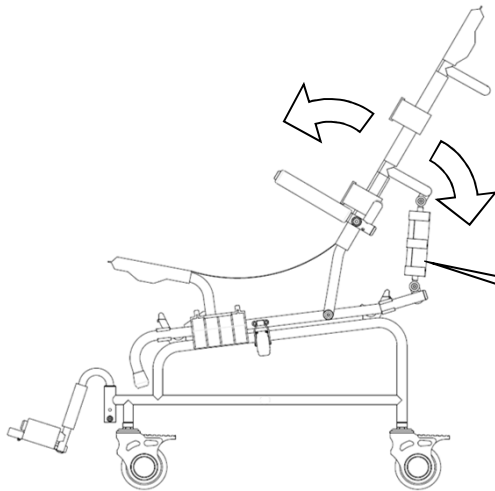
### 重 要

左右の吊りベルトは、脚側、肩側 どちらも同じ長さに調整して下さい。左右の長さが違うと、横にバランスが崩れ、落下する恐れがあります。



① リクライニング角度を決めます。

搭乗者の身体の状況に応じたバックレストの角度をリクライニングハンドルを回し、調整します。



**注意** 吊りベルトの長さを変更し、吊り姿勢を調整した後に、バックレスト角度を変更した場合、吊り姿勢も変化する為、再度調整を行う必要が有ります。

リクライニングハンドルを回し、バックレストの角度を調整します。

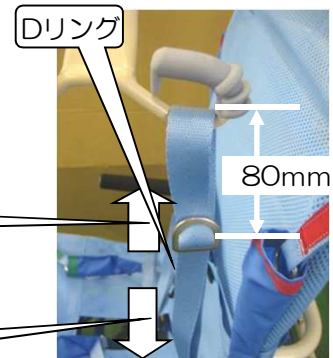
② 吊りベルトの長さ、吊り姿勢を調整します。

搭乗者を乗せない状態で、スプリングキャッチを外し、入浴介護リフトでチェア部のみを吊り上げ、以下の項目の確認を行います。

- ・ チェア部が台車から離れるか
- ・ 浴槽のエプロンに当たらずに浴槽上まで移動できるか
- ・ 浴槽の底にチェア部が着地するか
- ・ 洗い場にチェア部が着地するか

不具合のあった場合には、吊りベルトの長さを調整しながら、再度上記の項目を確認します。

吊りベルトの長さは、右図のように、Dリングが見える側のベルトをハンガー側にずらせば長くなり、チェア部側にずらせば短くなります。



ベルトは長くなります

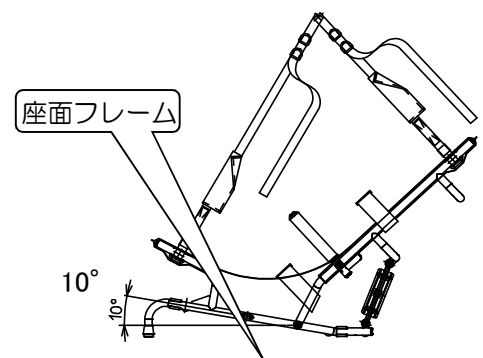
ベルトは短くなります

また、ハンガーに近い方のDリングはベルト先端から80mm位に固定します。

合わせて吊り姿勢を、脚側、肩側のベルトの長さを調整して、座面フレームと床との角度が、 $10^{\circ}$  位になるように調整します。

**重要**

座面フレームと床との角度は、 $-5^{\circ} \sim 20^{\circ}$  以内で調整して下さい。バランスが崩れて、落下や転倒の恐れがあります。





#### (4) チェア部の分離

入浴介護リフトに吊りベルトを接続し、リフトの操作によりチェア部を吊り上げる直前に行う作業です。

① キャスターのブレーキペダルを踏み、確実にブレーキを掛けます。

② 吊りベルトの接続を確認します

吊りベルトの各接続部が確実に接続されていることを確認して下さい。



③ 安全ベルトの接続を確認します。

「P10 3-(5) 安全ベルトの着脱」を参照しながら、確実に接続されていること  
長さが調整されていることを確認して下さい。



④ キャリー左右のスプリングキャッチをはずします

「P8 3-(2) チェア部の分離・合体の操作」を参照しながら外します。



## (5) 入浴介護リフトの操作

入浴介護リフトの取扱説明書を参照しながら、操作を行って下さい。  
また、リフトを操作しながら以下のことを確認します。

- ・ 吊り姿勢は変化していないか
- ・ チェア部が台車から離れるか
- ・ 浴槽のエプロンに当たらずに浴槽上まで移動できるか
- ・ 浴槽の底にチェア部が着地するか
- ・ 洗い場にチェア部が着地するか

実際に人が乗った状態で不具合があった場合には「P 14 4- (3) 吊りベルトの調整」を参照しながら、再度 調整を行って下さい。

## (6) チェア部の合体

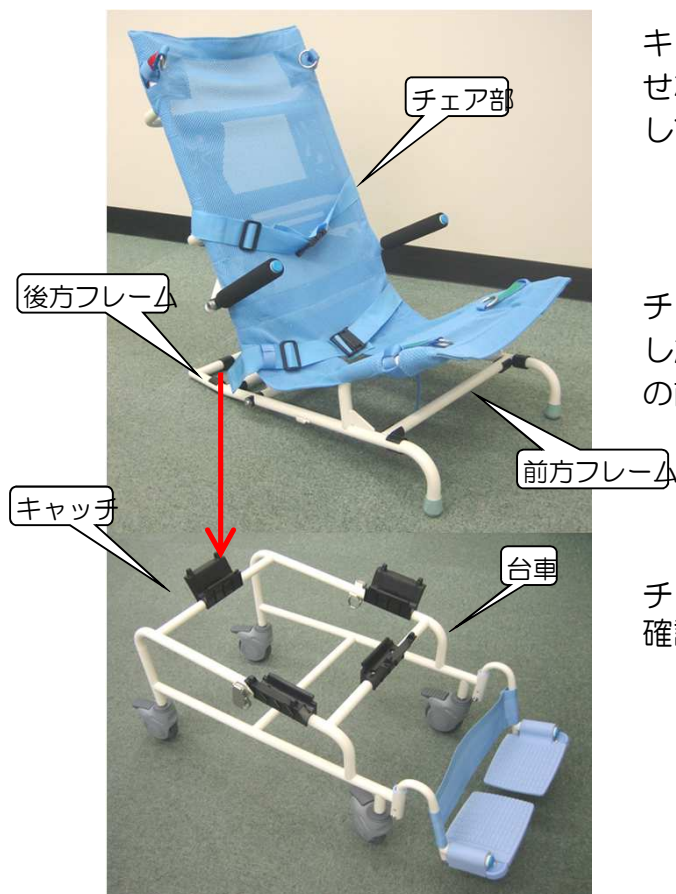
リフト入浴の終わりに、チェア部を台車に戻す作業です。

### ① 移動します。

チェア部を入浴介護用リフトで吊り上げ、台車の上まで移動します。

### ② 合体します。

キャッチ（合体ガイド）をチェアの後方フレームに合わせながら、リフトを操作し、チェア部を降ろしていきます。

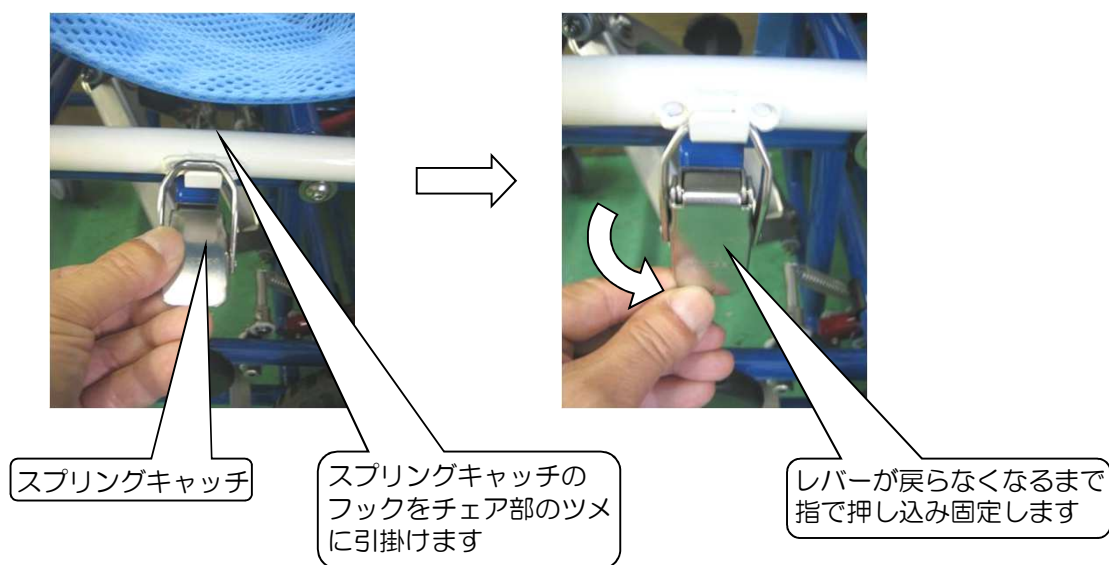


キャッチをチェアの後方フレームに合わせながらリフトを操作しチェア部を降ろしていきます

チェアの後方フレームがキャッチに着地した後、さらに下降を続けると、チェア部の前方フレームが着地します

チェア部が、台車に完全に着地した事を確認します

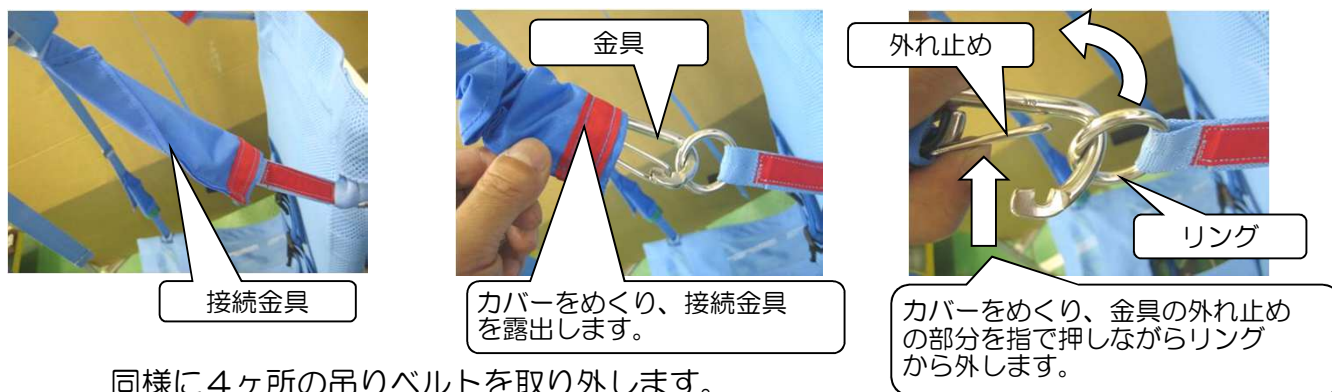
③ スプリングキャッチの固定  
左右のスプリングキャッチを固定します。



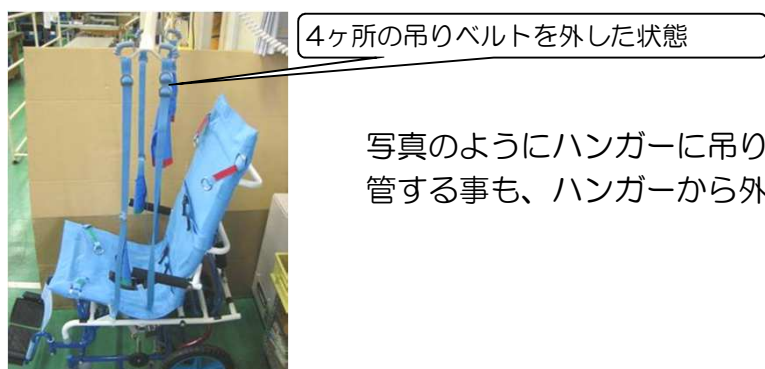
**重要** スプリングキャッチは必ず左右両側を固定して下さい。片側のみの固定、及び確実に固定されていない状態でご使用された場合、バランスを崩し転倒する恐れがあります。

(7) 吊りベルトの取り外し

入浴介護リフトのハンガーに、接続された脚側吊りベルト、肩側吊りベルトを接続金具から取り外し、リフトとキャリーを切り離します。



同様に4ヶ所の吊りベルトを取り外します。



写真のようにハンガーに吊りベルトを接続したまま保管する事も、ハンガーから外しておく事も可能です。

## (8) 移動

### ① 水分を拭き取ります。

搭乗者の身体をタオルで拭くのと合わせてキャリーの水滴も拭き取ります。

### ② ブレーキを解除します。

キャスターのブレーキペダルを上方へ跳ね上げブレーキを解除します。

### ③ 移動します。

ベッドや居室へ移動します。

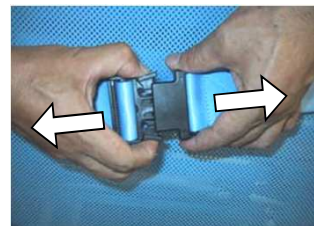
「P12 4-(1) はじめに」にを参照しスロープを通る場合には、バックレストを一番起こした状態に調整してから移動します。

#### **重 要**

バックレストを寝かせた状態で、スロープを通るとバランスが崩れて後方に転倒する恐れがあります。

### ④ 安全ベルトを外します。

「P10 3-(5) 安全ベルトの着脱」を参照し、安全ベルトを外します。





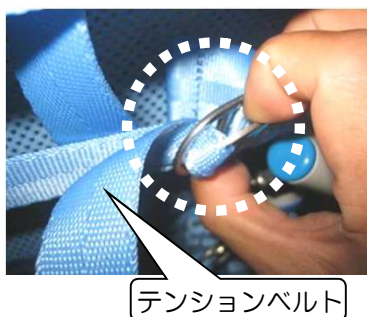
## 5. メッシュシートの取り付け、取り外し

このキャリアに使用されている、メッシュシートは、Dリングとテンションベルトで固定されており、取り外す事が可能です。汚れて洗濯が必要な場合や、古くなり交換が必要な場合には、以下の方法で取り外し、取り付けを行ってください

### (1) テンションベルトの外し方



メッシュシートはテンションベルトで5ヶ所固定されています。メッシュシートを外す時にはすべてを外します。



- ① 2つ重なったDリングの間に隙間を作るように指で押さえます。



- ② ベルトをDリングの内側に向かって押し込みたるみを作ります。



- ③ たるみ部分を大きくするように、さらに押し込みベルトの先端を引き抜きます。



- ④ Dリングからベルトを引き抜きます。

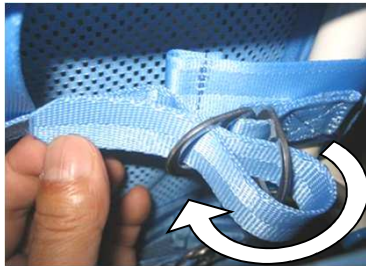
## (2) テンションベルトの付け方

メッシュシートを付ける際は、外した手順を逆に行い取り付けます。



- ① テンションベルトを先端からねじれないように2つのDリングに通します。

Dリング  
テンションベルト



- ② 写真のように手前側のDリングの外側を通して奥側のDリングにベルトを通します。

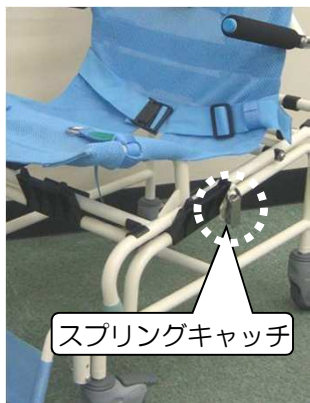


- ③ 通したベルトの先端を少しずつ引きながら通して奥側のDリングにベルトを通します。お好みの張り具合になったら、次のベルトを付け、全部（5ヶ所）を付け終わった後に再度、張り具合を確認します。

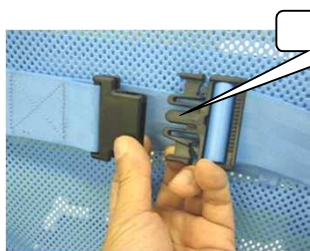
### 注 意

テンションベルトを張る際には、キャリアのフレーム等に手をぶつけないように充分注意して行って下さい。

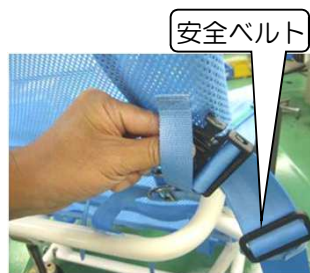
### (3) メッシュシートの外し方



- ① 台車とチェア部のスプリングキャッチを外し、分離します。



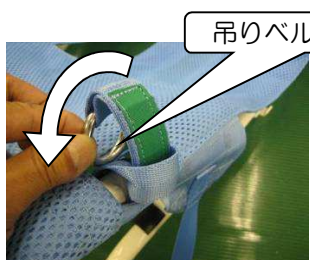
- ② 2ヶ所に付いている安全ベルトのバックルを外します。



- ③ 2ヶ所の安全ベルトをベルトループ抜きます。

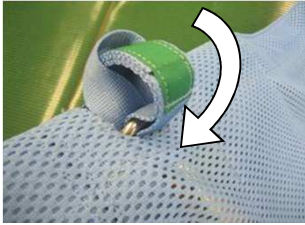


- ④ 5ヶ所のテンションベルトを、5-(1)「テンションベルトの外し方」に従って取り外します。

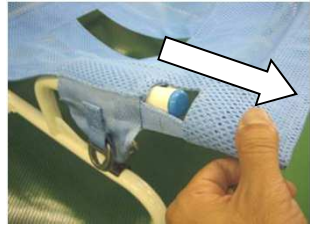
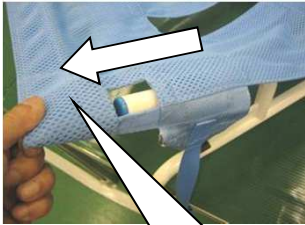


- ⑤ 脚側吊りベルトのリング部を左図の左図のようにシートの切り欠きに差し込み裏側へ抜きます。





⑥ 反対側も同様に裏側へ抜きます。



⑦ メッシュシート脚側を前方に引き、パイプにかぶっている部分を外します。

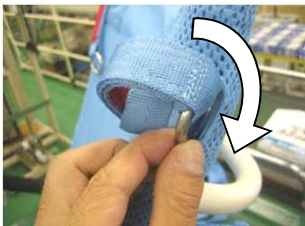
メッシュシート脚側



⑧ メッシュシートの脚側が外れた状態。



吊りベルトリング部

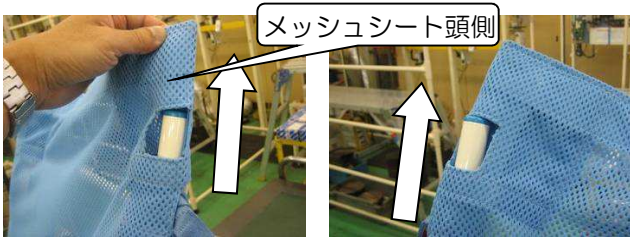


⑨ 肩側吊りベルトのリング部を左図のようにシート切り欠きに差し込み、裏側へ抜きます。



⑩ 反対側も同様に裏側へ抜きます。





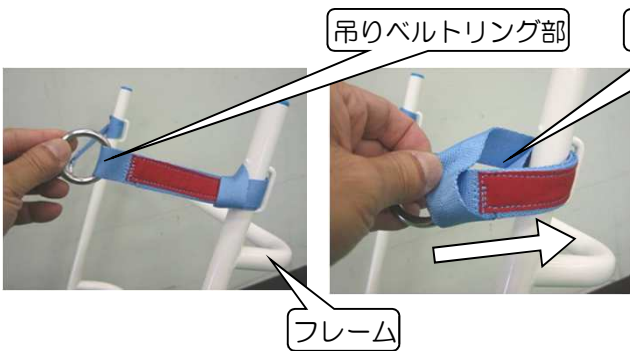
- ⑪ メッシュシート頭側を上方に引き、パイプにかぶっている部分を外します。

**注 意**

テンションベルトやDリングのからまりに注意しながらシートを外して下さい。



- ⑫ メッシュシートが外れた状態。



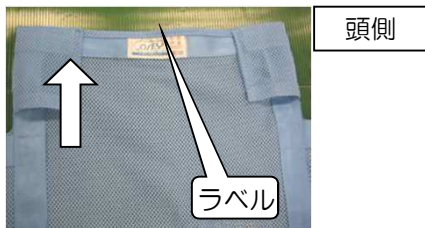
- ⑫ 残った吊りベルトのリング部分をフレームに巻きつけたベルトのループ部分に通し、左図のように外します。



- ⑬ 4ヶ所の吊りベルトリング部分を同様に外します。

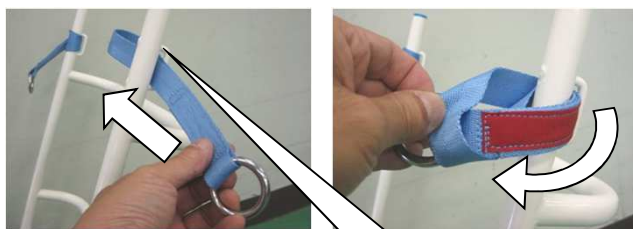
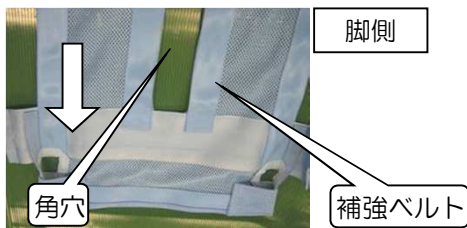
#### (4) メッシュシートの付け方

メッシュシートの取り付けは外した時の逆の手順で行います。ここでは取り付ける際の注意点を記します。



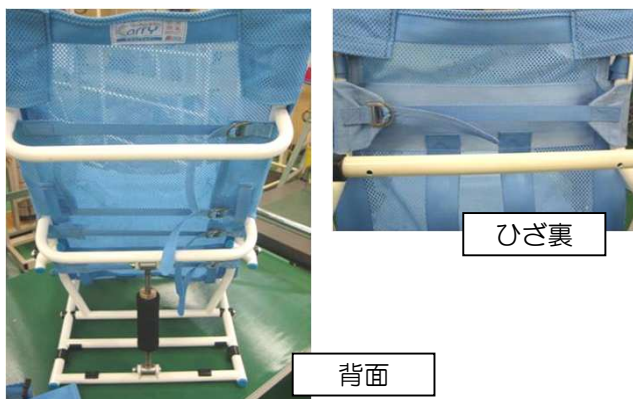
- ① メッシュシートは広げた際、ラベルの有る方向が頭側、角穴の開いている方向が脚側となります。

また、補強ベルトの見える面が、裏側になります。表面(搭乗者の肌が当たる側)には何も縫製されていませんので、間違いのないように取り付けて下さい。

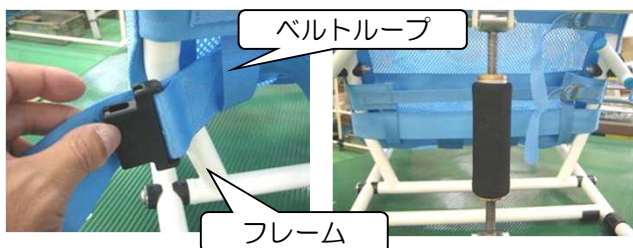


- ② 吊りベルトリング部分は、4ヶ所とも、写真のように取り付けます。

必ず、フレームにあるベルト溝を通し、固定します。また、赤色のテープが付いている方が背中側、緑色のテープが付いている方が脚側となり、色の付いている面が左図のように外側を向くように取り付けます。



- ③ テンションベルトの締める位置は、左図を参考に取り付けます。



- ④ 安全ベルト腰部は、ベルトループを通してからフレームの外側を通して、表側に回します。

## 6. 日常のお手入れ、点検について

「クルリクキャリー」は、金属、プラスチック、ゴム、ナイロン生地を材料としています。 錆びや腐食には充分配慮して作られていますが、使用にあたっては下記の項目に注意してお使い下さい。

### (1) 通常のお手入れ

フレームは、ステンレスの上に塗装がされていますが、汚れてきた場合はやわらかい布に、中性洗剤を浸して汚れを取り、乾いた布で拭き取って下さい。

#### 注 意

強い酸やアルカリ、塩素系洗剤は使わないで下さい。誤って、これらの洗剤をフレームやメッシュシートにかけてしまったら、シャワー等で洗い流して下さい。  
また、金属などの硬い物でこすったりたたいたりしないで下さい。

### (2) メッシュシートのお手入れ

洗濯時は手洗いをおすすめしますが、洗濯機で洗う場合には、ネットを使用し、弱流で洗濯して下さい。 また、乾燥は日陰干しして下さい。

#### 注 意

アイロン及び乾燥機は使用しないでください。  
また、ドライクリーニングは絶対に行わないで下さい。

### (3) 日常の点検について

以下の事を確認してから使用して下さい。

- ブレーキは、効きますか？
- リクライニングは正常に作動しますか？
- 肘掛け・フットレストは正常に作動しますか？
- スプリングキャッチは正常に作動しますか？
- 吊りベルトに切れやほつれはありませんか？
- メッシュシートに切れやほつれはありませんか？
- 安全ベルトに切れやほつれ、バックルの割れはありませんか？
- ネジやナットに緩みはありませんか？

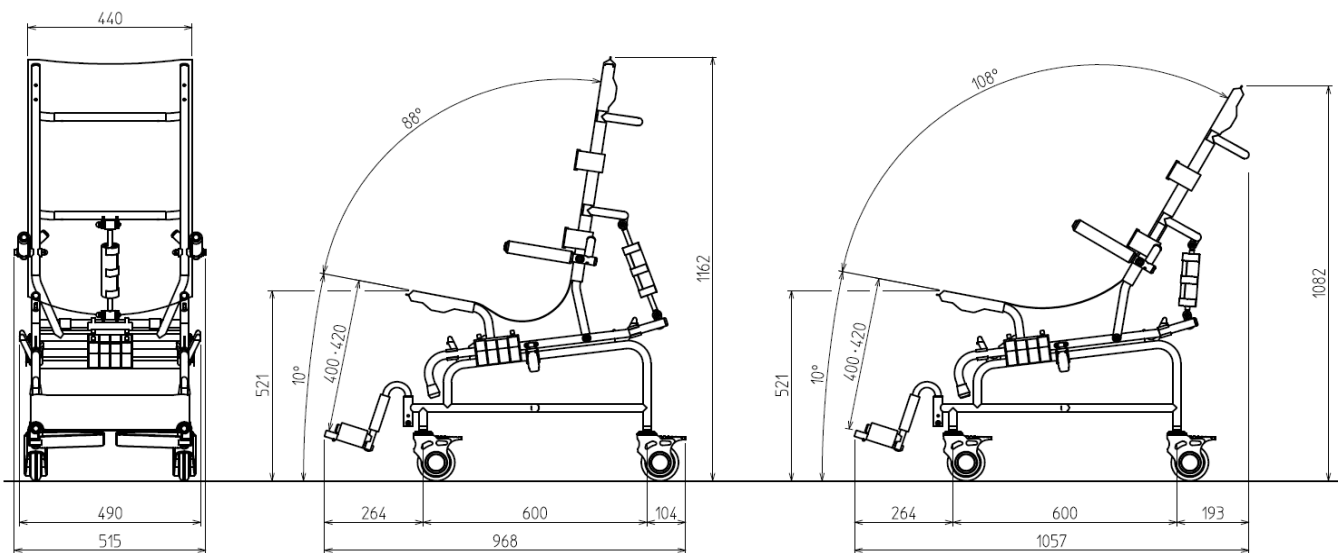
※ メッシュシートや吊りベルトは消耗品です。 切れ、ほつれ、こすれあとなどが発生したら、すみやかに交換して下さい。

※ 肘掛のスポンジ、 リクライニングハンドルのスポンジは消耗品です。 切れ、欠けなどが発生したら、すみやかに交換して下さい。

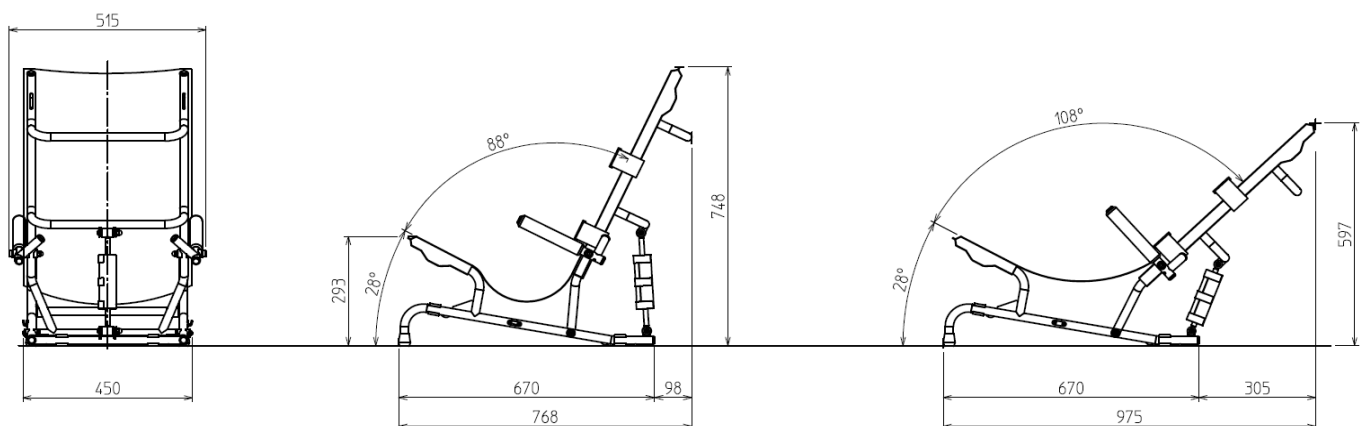
その他 不具合が発生した場合には、使用を止め、弊社または代理店にご連絡下さい。

## 7. 仕様

各部寸法	下記寸法図を参照
リクライニング	座面フレームに対して、 $105^{\circ}$ ~ $125^{\circ}$ の間で無段階
重さ	15kg (チェア部：8kg 台車：7kg)
最大荷重	80kg
材質	本体：ステンレス、ナイロン、樹脂等 シート：抗菌ナイロン繊維等
車輪	前輪、後輪： $\phi 100\text{mm}$ (樹脂)



カリー全体寸法



チェア部寸法

お問合せは

販売店



株式会社 **ミクニライフ&オート**

【本社】 〒349-1145 埼玉県加須市間口 456-1

TEL. 0480(72)7221 FAX. 0480(72)7223

【業務課】 〒347-0013 埼玉県加須市北篠崎 7-1

TEL. 0480(69)2350 FAX. 0480(68)5567